**【大学教育推進会議】e-Learning推進部会**

**e-Learning科目＿**初等教科教育法（音楽）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **No** | **テーマ** | **学修到達目標** | **内　容** | **課題** |
| 第1講 | 21世紀に求められる学力と学習環境 | （１）21世紀に求められる学力について説明できる。  （２）資質・能力を引き出す授業の条件を説明できる。 | （１）知識基盤社会で求められる力  （２）21世紀型学力を育成する授業への変革  （３）授業・教育課程のすがた  （４）評価のすがた  （５）「前向き授業」をつくる音楽科の取り組  　　　み | （１）知識習得モデルと知識創造モデルの違いを説明しなさい。  （２）知識習得モデルから知識創造モデルへの授業改善について、具体例をあげて説明しなさい。  （３）変容的評価について、具体例をあげて説明しなさい。 |
| 第2講 | インストラクショナルデザイン | （１）インストラクショナルデザインとは何か説明できる。  （２）ADDIEモデルについて事例をあげて説明できる。 | （１）インストラクショナルデザインとは  （２）教材開発とインストラクショナルデザイン  （３）ADDIE～インストラクショナルデザインの５つのプロセス（手順）～  （４）ADDIEフレームワークの活用　～音楽科の授業改善と資質・能力の伸長のために～ | （１）ADDIEのプロセスを検討し，音楽の教材を作成しなさい。 |
| 第３講 | 教育デザイン研究と授業デザインの実践 | （１）ブルームの教育⽬標分類について、⾏動⽬標による具体例を挙げて説明できる。  （２）ガニェの学習成果の５分類について、⾏動⽬標による具体例を挙げて説明できる。  （３）音楽科の題材における学習⽬標について、具体的に説明できる。 | （１）学習目標の明確化と授業デザイン  （２）学習目標の明確化と学習目標の分類  ・ブルーム　・ガニェ  （３）深い学びを目指す学習目標の構造化　～目標分析と目標分類～ | （１）ブルームの教育目標分類について、行動目標による例を取り上げて説明しなさい。  （２）ガニェの学習成果の5分類について、具体例を挙げて説明しなさい。  （３）具体的な題材において、目標分類表を設定しなさい。 |
| 第４講 | 教育方法の歴史 ～教えと学びのパラダイムの交錯～ | （１）教育方法の歴史をつかみ、現行学習指導要領の転換が図られていることを理解し，説明することができる。  （２）現在の学習指導要領において，重要視されている学習者の主体的に学ぶ態度（自律的な学び）について，音楽科の具体例を示しながら説明できる。 | （１）教育方法の歴史としての行動主義的学習観について  （２）教育方法の歴史としての認知主義的学習理論について  （３）教育方法の歴史としての構成主義的学習理論について  （４）教育方法の歴史としての社会構成主義的学習理論について  （５）教えと学びのパラダイムの交錯 | （１）教育方法の歴史としての，学習観の変遷を，学習者の具体的な姿を示し，述べなさい。  （２）現在の学習観において、重要視されている学習者の主体的に学ぶ態度（自律的な学び）について、具体例を示し、述べなさい。 |
| 第５講 | 音楽科授業の分析と設計 | （１）何を学ぶのか、そのための授業のあり方について説明できる。  （２）システム的な授業設計・開発の手順を5つに分けて説明できる。 | （１）授業の目標分析  （２）教育目標の分類学  （３）題材構成と教材の構造  （４）授業の設計・開発の手順 | （１）自分が授業を行うとするならば、何を学ぶ授業とするのかを具体的に述べなさい。学ぶことを実現するために、どのような授業とするのか、その方針を述べなさい。  （２）（１）で述べた授業を基に、システム的な授業設計について、①何をしたいのか②何を学びたいか③何を指導したいか④どのような順序で学ぶのか⑤それを指導するために何がいるのか、の５つに分けて、具体例を示しなさい。 |
| 第６講 | 子供の学習意欲を高める教育 | （１）学習意欲を高める指導法について説明できる。  （２）J.M.ケラーの ARCS（アークス）モデルについて、音楽科の学習活動の例を挙げて、具体的に説明できる。  (3)アンドラゴジー（Andragogy）をもとにして、学校式教育から⼤⼈の学び⽀援についてその違いを具体的に説明し、授業設計に生かすことができる。 | （１）動機づけを高める要因  （２）主体的に学ぶ学習意欲を高めるための方略　～IDの視点で授業デザインする、動機づけ設計法ARCS（アークス）モデルとは～  （３）IDの視点で学習意欲を⾼めるフレームワーク１～ARCS（アークス）モデルを音楽科授業の実際に生かす～アンドラゴジーとペダゴジー  （４）IDの視点で学習意欲を⾼めるフレームワーク２～成人学習学の原則「アンドラゴジー（Andragogy）」の考え方を生かす  （５）学ぶ意欲を保ち続けるために | （１）音楽科の学習の動機づけの具体的な⽅法をあげて、J.M.ケラーのARCＳ（アークス）モデルのどの分類にあたるか、説明しなさい。  （２）アンドラゴジーの特徴を、ペタゴジーとの比較をもとにして、学校式教育  から大人の学び支援について、その違いを具体的にカードで５つ挙げ、みんなの広場でグループごとに分類し、説明しなさい。【タブレット課題】 |
| 第７講 | 発達段階を踏まえた指導の充実 | （１）保幼小の連携、小中の学習指導要領の構成について、説明できる。  （２）発達段階を踏まえた指導の充実（低・中・高学年）について、具体的な手だてを説明できる。 | （１）保幼、中学校の音楽科学習の接続  （２）発達段階を踏まえた音楽の感受を深める・表出する方法とその手だて | （１）音楽科の学習指導において、児童の発達段階を踏まえた指導の具体例を、教材（楽曲）例を用いて説明しなさい。  （２）育みたい資質・能力を焦点化した音楽科学習指導の、小中比較表を作成しなさい。 |
| 第８講 | 「教えないで学べる」という新たな学び | （１）「教えないで学べる」とはどのようなことか具体例を挙げて説明できる。  （２）「教えないで学べる」という新たな学びの設計ができる。 | （１）J・Bキャロル（Carroll）の学校学習の時間モデル  （２）「教えないで学べる」学習環境 | （１）キャロル（J.B.Carroll）の学校学習の時間モデルについて説明しなさい。  （２）「教えないで学べる」学習環境について具体的に説明しなさい。  （３）「教えないで学べる」研修を実現するための手だてを考えなさい。 |
| 第９講 | 新たな学びとしての反転授業 | （１）反転授業について、具体例な説明ができる。  （２）音楽教育における反転授業の授業設計ができる。 | （１）協働学習と互恵的教授法の考え方と学習効果  （２）協働学習に影響を与える要因  （３）協働学習のデザインの手法と協働学習を支援する教材開発 | （１）音楽教育における反転授業の学習展開について具体的に指導案を作成しなさい。  （２）音楽教育における反転授業とその効果と可能性について説明しなさい。 |
| 第10講 | 協働的な学びのICTデザイン | （１）協働的な学びにおけるICT活用のメリットを説明できる。  （２）協働学習の考え方を理解し、実際に授業デザインできる。 | （１）協働学習と互恵的教授法の考え方と学習効果  （２）協働学習に影響を与える要因  （３）協働学習のデザインの手法と協働学習を支援する教材開発 | （１）協働的な学びにおけるICT活用について、学習活動と方法を、具体例を挙げて説明しなさい。 |
| 第11講 | 学びの個別最適化をめざす音楽教育 | （１）一人一人の子どもの音楽技能や興味・関心によって、追究方法や内容を選ぶ授業づくりができる。  （２）協働的な学びをいかした学びの個別最適化を授業設計できる。 | （１）指導の個別化と学習の個性化  （２）学びの個別最適化  （３）個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 | （１）学びの個別最適化に対応する音楽科学習の授業設計例を、フローチャートで示しなさい。  （２）協働的な学びをいかした学びの個別最適化に対応する授業設計を、（１）に続けてフローチャートで示しなさい。 |
| 第12講 | カリキュラム・マネジメントと音楽科学習指導 | （１）音楽科におけるカリキュラム・マネジメントの充実について、説明できる。  （２）教科目標と評価のかかわりの視点から、コンピテンシーを育む授業づくりの工夫・改善について説明できる。 | （１）資質・能力を育むカリキュラム・マネジメント  （２）教科目標と21世紀型学力  （３）補充的・発展的な学習への対応 | （１）教科目標と21世紀型学力を関連して説明しなさい。 |
| 第13講 | コンピテンシーを育成するデジタルアーカイブの構築 | （１）音楽科におけるデジタルアーカイブの利点を説明できる。  （２）音楽科デジタルアーカイブを構想できる。 | （１）コンピテンシーを育む音楽科デジタルアーカイブの構築  （２）学びを可視化するスタディー・ログや学習データ（音源、MIDIデータ、動画、レポートなど）の整理と工夫  （３）補充的・発展的な学習への対応とデジタルアーカイブ  （４）音楽科教育研究とデジタルアーカイブ | （１）音楽科デジタルアーカイブのフレームワークを構成しなさい。 |
| 第14講 | 音楽の意味と価値 | （１）音楽のおこりと発展について、説明できる。  （３）教材のマトリックスとその活用について、説明できる。 | （1）人間を知る、感じる  （2）音楽の世界  （３）音楽の見方・考え方  （４）教材の範囲とマトリックス  ・鑑賞　西洋音楽史  ・日本と諸外国の音楽  ・ポピュラーミュージック  ・表現  ・歌唱と合唱  ・器楽創作 | （１）学年の音楽科年間指導計画を作成し、教材選定意図を説明しなさい。 |
| 第15講 | 音楽はなぜ学校に必要か～未来を生きる世代に必要なこと | （１）音楽の多様性と普遍性について、音楽の例を挙げて説明できる。  （２）子ども一人一人が自分の個性に気付き、創造の担い手となる経験ができる音楽科学習を構想できる。 | （１）音楽の多様性と普遍性  ～文化や歴史の理解～  （２）人間の感情と音楽・芸術表現のエネルギー  （３）感性を育む音楽科の役割  （４）想像力とイノベーション（創造性）の発展 | （１）創造力を育む音楽科学習指導のために取り組むべきことを説明できる。 |